

「神を捨てた ソロモンの息子」

歴代誌第2 12章1～14節

1

レハブアムの王位が確立し、彼が強くなるに及んで、彼は【主】の律法を捨て去った。そして、全イスラエルが彼にならった。レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来た。彼らが【主】に対して不信の罪を犯したからである。戦車一千二百台、騎兵六万がこれに従った。また、彼とともにエジプトから出陣した民、すなわちルブ人、スキ人、クシュ人の人数は数えきれないほどであった。彼はユダに属する防備の町々を攻め取り、エルサレムまで攻め寄せて来た。そのとき、預言者シエマヤが、レハブアムと、シシャクを前にしてエルサレムに集まったユダのつかさたちのもとに来て、彼らに言った。「【主】はこう仰せられる。『あなたがたがわたしを捨て去ったので、わたしもまたあなたがたを捨ててシシャクの手に渡した。』」 2歴代12:1-5

2

すると、イスラエルのつかさたちと王とはへりくだり、「【主】は正しい」と言った。【主】が、彼らのへりくだった様子をご覧になると、シエマヤに次のような【主】のことばがあった。「彼らがへりくだったので、わたしは彼らを滅ぼさない。間もなく彼らに救いを与えよう。シシャクの手によって、わたしの怒りをエルサレムに注ぐことはやめよう。ただし、彼らは彼のしもべとなる。わたしに仕えることと地の諸王国に仕えることとの違いを思い知るためである。」エジプトの王シシャクはエルサレムに攻め上って来て、【主】の宮の財宝、王宮の財宝を奪い取り、何もかも奪って、ソロモンが作った金の盾をも奪い取った。それで、レハブアム王は、その代わりに青銅の盾を作り、これを王宮の門を守る近衛兵の隊長の手に託した。 2歴代12:6-10

3

王が【主】の宮に入るたびごとに、近衛兵が来て、これを運んで行き、また、これを近衛兵の控え室に運び帰った。このように、彼がへりくだったとき、【主】の怒りは彼の身を離れ、彼を徹底的に滅ぼすことはされなかった。ユダにも良いことがあったからである。こうして、レハブアム王はエルサレムで勢力を増し加え、国を治めた。レハブアムは四十一歳で王となり、【主】がご自分の名を置くためにイスラエルの全部族の中から選ばれた都、エルサレムで十七年間、王であった。彼の母の名はナアマといい、アモン人であった。彼は悪事を行った。すなわち、その心を定めて常に【主】を求めることをしなかった。 2歴代12:11-14

4

力は人を高ぶらせる

- レハブアム王(前930-913)
- イスラエルの王は神のしもべ
- 彼がその王国の王座に着くようになったなら、レビ人の祭司たちの前のものから、自分のために、このみおしえを書き写して、自分の手もとに置き、一生の間、これを読まなければならない。**それは、彼の神、【主】を恐れ、このみおしえのすべてのことばとこれらのおきてとを守り行うことを学ぶためである。それは、王の心が自分の同胞の上に高ぶることがないため、また命令から、右にも左にもそれることがなく、彼とその子孫とがイスラエルのうちで、長くその王国を治めることができるためである。 申命記17:18-20**

5

力は人を高ぶらせる

- 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎませんむしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」ところがこのとおり、**あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。** ヤコブ4:13-16
- クリスチャンも神のしもべ(弟子)

6

み言葉を捨てることは神を捨てること

- 「あなたがたがわたしを捨て去ったので」12:5
- イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。ヨハネ14:23-24
- 神は従順と、賛美と、へりくだった人々の中に住む。

7

神を捨てる人を神も捨てる

- そこで、彼はアサの前に出て行き、彼に言った。「アサおよび、すべてユダとベニヤミンの人々よ。私の言うことを聞きなさい。あなたがたが【主】とともにいる間は、主はあなたがたとともにおられます。もし、あなたがたがこの方を求めるなら、あなたがたにご自身を示してください。もし、あなたがたがこの方を捨て去るなら、この方はあなたがたを捨ててしまわれます。Ⅱ歴代 15:2、12:5
- 神の愛は一方的でも、一方通行ではない。神は私たちからも愛を求める。

8

神を捨てる人を神も捨てる

- 次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちが否まれる。私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」2テモ7:11-13
- わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。見よわたしは、戸の外に立ってたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。黙 3:19-20

9

問題は人をへりくだらせる

- 神は問題という教師(しもべ)を使って教える
- 「ただし、彼らは彼のしもべとなる。わたしに仕えることと地の諸王国に仕えることとの違いを思い知るためである。」2歴代12:8
- 「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」神の愛の警告ランプ 詩119:71
- すべて疲れた人、重荷を負っている人は私のところに来なさい。マタイ11:28-30
- 人は必ず何か仕えている。主のくびきは軽い!

10

問題は人をへりくだらせる

- へりくだること、悔い改めることは、「主は正しい」と言うこと。12:5、ルカ7:29-30
- 「神より自分」から「自分より神」へ
- 「彼は悪事を行った。すなわち、その心を定めて常に【主】を求めることをしなかった。」2歴代12:14 悪事=主を求めないこと
- 神が求めること。主を求め、愛すること
- 求め続けること。愛し続けること。成長し続けること。

11

へりくだって学んだレハブアム王

- 高ぶり、高慢はアダムとエバの時からの人類の問題。「高慢の元祖は悪魔」
- 高慢がこの世の様々な問題の根底にある。
- 私たちの創造者である神はへりくだった神。
- 私たちはその方に似るように創られた。
- 主の負いやすいくびきを負って日々主に従って、主と一緒に歩みましょう。みんなと一緒に
- 順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ(神中心) 伝道者7:14
- 順境の日には高ぶり、逆境の日には落ち込め、ではない。(自分中心)

12